



名古屋部会(第8回)

日 時 :	2016年9月17日(土) 15:00 ~ 17:15
場 所 :	椋山女学園大学星が丘キャンパス(名古屋市千種区)
参加者 :	中学校・高等学校・大学の先生方など12名が参加した。

【内容要旨】

椋山女学園大学星が丘キャンパスの教室を水野先生の手配により会場としてお借りし、第8回の名古屋部会を開催した。

第8回の名古屋部会を経済分野の授業の実践事例や教材の紹介を目的に開催した。最初に経済教育ネットワークの最近の活動状況や今後のスケジュールについて代表の篠原総一氏(京都学園大学学長)よりご紹介頂いた。

続いて、杉浦光紀氏(東京都立秋留台高等学校)より「現代社会と原発—これからの原発の話をしよう—」をテーマにジグソー学習を用いた授業実践の紹介を行った。原子力発電所の事故以来、科学技術の利用は大きなリスクを伴うものであり、原発の存否のような問題は科学者や専門家の意見を聞くことはできるが、科学者や専門家のみで意思決定されるべき問題ではないことが認識されるようになった。原子力発電が環境や人体にどのような影響を与えるのかについて科学者が説明することはできるが、リスクを受け入れた上で原発を稼働させるかどうかは市民の価値観にもとづく社会的決定によるべきものであり、そのためには多様な知識に基づいて意見を交わしながら意思決定していくことが必要である。ジグソー学習は複雑な課題について多様な知識を用いて解決するための学習の方法であり、原子力発電を存続するか否かという意思決定に関するディスカッションを通じて学習する方法が示された。生徒は議論を通じて多様な視点からの意見を調整し合意形成がなされることで自らの意見を深めていくことの意義などが示された。

原発という時事的な問題で意見が分かれるテーマであることの扱いにくさや教員の価値観が反映されること等について話題になり、合意形成の社会的意味やその差異に注目することの必要性について議論された。

引き続き、弓矢伸一氏(三重県四日市商業高等学校)より「経済理論を教えるためのイラスト教材」をテーマに、マクロ経済学の内容について、わかりやすく興味を持ちやすいイラストを用いて教える授業実践の紹介を行った。3年生の世界史・日本史の教科書を利用して、経済発展の歴史を1ヶ月で教えるために、①原始共同社会から農業の発展と食料の増産が可能になる。②身分制度が崩れ職業選択の自由を獲得し熟練工が生まれやすくなる。③科学技術の進歩に伴い生産性が向上する。④人口の増加が商品生産を支えた。⑤造船技術の進歩が船の大型化をもたらし、航海術の進歩で海運が発達した。⑥スパイスの獲得や奴隷や植民地の獲得が盛んになり、国際貿易が発展した。をポイントとして指導した上で、アダム・スミスの国富論、カール・マルクスの資本論、ケインズの各種の経済理論をイラスト教材を用いてわかりやすく教える方法が示された。

時代の変化に合わせて主流となる経済学が変化していることや経済政策の有効性から、どのような経



経済理論を教えるべきか等について議論が行われた。

各氏のお話の後には活発な議論を行った。最後に、水野英雄（梶山女学園大学現代マネジメント学部准教授）より経済教育の更なる発展のために名古屋部会としても活発に取り組んでいきたいことと交流のために全国の他の部会への参加の依頼があった。

次回については11月26日（土）に梶山女学園大学にて開催することとした。



篠原総一氏（京都学園大学）



杉浦光紀氏（東京都立秋留台高等学校）



弓矢伸一氏（三重県四日市商業高等学校）



ディスカッションの様子

撮影と文責： 水野 英雄

次回開催予定： 2016年11月26日（土）15:00 ～17:00に、場所は梶山女学園大学星が丘キャンパス（名古屋市）。議題は、教材の紹介や経済教育の進め方に関するディスカッションほか。